

1P  
 だいが夏（なつ）の気候になつてきました、皆さんいかがお過ごしですか。

6月11日  
 以前、日本には夏季が三回あると聞いたことがありません。

2008年（平成20年）  
 つまり去る十日に梅雨入りしたようですが（たま

2008年（平成20年）  
 たま今年（ことし）は暦どおりの梅雨入りです（湿度満点の梅

2008年（平成20年）  
 雨時期、その後の入道雲と

2008年（平成20年）  
 から十月上旬の「長崎くんち」前後まで続く残暑、つ

2008年（平成20年）  
 くづく我が国は春と秋の過ぎし易い時間は少ない

2008年（平成20年）  
 ような感じがします。

2008年（平成20年）  
 しかし、この夏の暑さや降雨による温帯モンスー

2008年（平成20年）  
 ン気候によって米の恵みがあることを忘れてはなりません。

者は今年三川町の川沿い、それに東長崎町から間ノ瀬に入るところにある昔は長崎人の行楽地でもあった「瀧ノ観音」付近の川に見に行ってみましたが、時期をやや逸したのかあまりたくさん（おおい）の蛭（むし）に出会うことはできませんでした。

去る六月二十二日は熊本市内公德会武道場での第三百九十二回有段者交流研修会に当長崎北道場から村里、古屋、阿比留、森脇それに野瀬の五名で参加しました。

数日前から続いていた梅雨前線の活発化による九州地方の豪雨もやや小康状態の中道中のフェリ

ーの中でいっしょになつた長崎道場の皆さんともいろいろ語りながら、あつという間に熊本県長洲の港に着きました。

このような天気のこと（こと）もあつてかやや参加者は少なく、また足の怪我治療のため砂泊先生はご欠席された。

しかし、瀧田師範長の号令による準備運動やその後の指導、また各道場長らによるそれぞれの技の稽古など充実した約二時間でつあつたが、天気のこと（こと）もあり稽古終了後は本部での懇談会は失礼させていただきます、長崎への帰路についた。

なお、今回の研修内容等については、また通常の稽古の中で報告を兼ねて説明しながら稽古をしたいと思ひます。

趣味の話（一）  
 この岩屋通信は愛読者も多く発刊を楽しみにしておられる方も多いと聞いています。ただ、合気道の機関紙であり、やはり少々固苦しいところは避けられません。

そこで今回から私の肩

のこらない趣味の話などをつれづれなるままに書いていきたいと思います。

さて栄えある第一回目の話題は「クワガタ」です。実は一昨年くらいからカブトムシやクワガタの飼育に凝っています。一昨年の夏休み、息子と一緒に長崎市主催のカブトムシ教室に参加し、カブトムシの飼ひ方を習ったのがきっかけです。その教室では、成虫の飼ひ方だけでなく、産卵から蛹を経て羽化するまでの一連の飼育方法を教えてくれ、ひとつがいのカブトムシを参加者にプレゼントしてくれました。

たいていの男性同様、私も成虫は子供の頃飼った事がありますが、蛹から孵した事はなかったものでこれはひとつ挑戦してみようか（大げさだけど）と思つたしだいです。

実際やってみるとこれがなかなか面白い。マットの中に白い小さな卵を見つけたときはワクワクしたし、幼虫が孵ったときは感動したし、その幼虫が器用に蛹室を作つて蛹化するときは感心したし、その蛹から羽化して白い羽の成虫が出てきたときはもう大興奮状態でした。そうして試行錯誤の結果、去年は二十五匹の成虫を孵すことが出来ました。当然、そんなに大量には飼えないので近所の子供に配つたり、息子の学校に持たせたりしましたが、これが結構喜ばれました。

しかし、はつきり言つてカブトムシはあまり世話もしなくてよく、マットを時々換えてやれば自然と成虫になり、大人の趣味としては少々物足りないと思つるところがありました。その頃、ふと新しく出来た

カブト・クワガタの専門店を覗いたら、そこにいましたよ、オクワガタが。クワガタって結構夏になると街頭や電灯に飛んでくるけど、たいていノコギリクワガタが多いじゃないですか。でも、そこにいたのは太く大きい立派なオクワガタ。全長六十八mmの存在感あふれるフォルムに一目惚れし、即購入しました。クワガタに関しては全くの素人だけど、聞けば菌糸ビンとかで育てるのが一般的らしい。カブトムシより難しく、結構手を食うらしい。これは大人の趣味としてはいいのではないだろうか。

大まかに言えば、オスとメスを同じ箱に入れて交尾させ、箱の中の産卵木の中に産卵させしばらくたってからその産卵木を割って幼虫を出し（割り出し

という）、菌糸ビンというキノコの菌糸を入れたビンの中で幼虫を大きくさせ成虫を孵化させるとのことです。ということで私も早速オスとメスをセットしました。

二ヶ月弱してからその産卵木を割ると、中から小さい初齢幼虫がたくさん出てきました。この割り出しはすごく楽しいし、何匹いるかなと思ってワクワクします。

それから菌糸ビンに入れるのですが、食欲旺盛な幼虫たちはすぐ菌糸を食い散らかし、次の菌糸ビンに変えなくてはなりません。面白いけど、結構お金がかかります（涙）しかし、私は思うのですが、大人の趣味と言うのは究極の無駄使いだと思っんですよ。

一銭の得にもならないのにお金を使うのがある意味格好良いじゃないですか（私だけ?）。

でも、仕事から帰ってきてその幼虫や成虫をボーと眺めるのは、私のホットできる瞬間であり、一日のうちで大切な時間となっています。

次号をお楽しみに（クワガタ等の写真付きでドーンと掲載予定）。

村里喜久己（五段）

#### 寂然不動

最近の武道関係で、一番印象に残ったのは、大相撲夏場所の千秋楽、朝青龍と白鵬の両横綱の結びの一番、勝負は朝青龍の勝ちであったが勝敗後両横綱の間で体が触れて少し不穏な雰囲気になったことです。

相撲と合気道の違いはありますが、我々も日常の稽古の中で技をかけた合気時はそれこそ気合を入れて、しかし一旦稽古が済めば「動」から「静」への気持ちの切り

替えを行いながら、稽古の時以上に相手を敬う気持ちを持つことが大切ですよ。

筆者の趣味の一つに一本桜をめぐる旅があります。定年退職したりして時間にゆとりがある人の中には二月頃に始まる沖縄地方からの桜見物に始まり、五月この頃になると北海道は函館から約五十km西にある松前城の桜までめぐって日本縦断をする人もいます。

いつか筆者もお金と暇ができれば是非体験したいものですが、今日は長崎地方の身近な一本桜情報をお教えしましょう。一本桜ですので、立山公園や護国神社などの桜並木は除きます（これはその季節になると、新聞やインターネットなどにも情報満載です）、一番近い所では

片淵町の長崎大学経済学部前のシダレ桜、やっこぶりで最近では樹勢もだいぶ弱ってきておりますが、隣の駐車場脇のソメイヨシノの並木と合わせて楽しむことができます。

波佐見町田ノ頭郷のシダレ桜、これは樹形も大きく長崎市内から高速度路を利用すれば比較的近く、一見の価値があります。

周辺に散在する焼き物の窯元めぐりや、鬼木郷の棚田（桜の時期はまだ田んぼに水は張っていませんが）見物とセットで行けば一日楽しく過ごせるでしょう。

六月二十九日（日）は恒例の北道場内の演武会です。梅雨空に負けないうよう体調管理にも留意しながら、あまり時間もありませんがしっかりと稽古に励んで下さい。